

教師の魅力発信動画 - 高等学校編 - (塔南高等学校 松田 賢太郎 教諭) 発言概要

ナレーション	<p>高等学校の先生を目指すあなたへ, 京都市立学校の先生の魅力を紹介します。</p> <p>今回は京都市立塔南高等学校の松田賢太郎先生にお話を伺います。</p>
テロップ	<p>京都市立塔南高等学校 松田賢太郎 教諭</p> <p>教員になってよかったと思う瞬間</p>
松田	<p>自分の生徒に対する努力が生徒に届いて, 生徒が高校生活に大きな満足感を感じてくれた時だと思います。</p> <p>初年度から担任を持ち, 三年生まで持上がりました。中にはなかなか学校に来づらい生徒であったり, 部活動の担当の時でも大会に関する事など色んな苦難があったと思います。生徒も苦しい顔をしていましたが, 部活の引退や卒業の時に, いろいろなことがあったけれど, このクラスで良かった, 部活動をやってよかったと, 結果に関わらず自分の中で満足のいく高校生活を過ごすことができたと感じてくれた時, 本当に教員になってよかったなと思った時です。</p>
テロップ	<p>教員生活で悩んだことは?</p>
松田	<p>初年度, 自分が教員として何を生徒に伝えなければならないのか, どういう言い方をしなければならないのか, 自分の中でルールというか使命感を感じていた時がありました。その時は勇み足で空回りするようなことが多かったですが, 先輩教員から一つの授業や少しの時間で生徒は変わらないと言っただけで, 少し肩の荷が下りた, 心が晴れたような気持ちで自分らしく教育活動に専念できたと思います。先輩からのアドバイスはすごく大きかったです。</p>
テロップ	<p>どうして京都市の教員になろうと思ったのか</p>
松田	<p>元々, 大学で古文を専行しようと思った時に自分が好きな平安時代の文学, せっかくなら物語の舞台となるような場所で学びたいと思ったのが京都に来たきっかけでもあったので, その京都市で国語を教える教員として働きたいと思ったことがきっかけです。</p>
テロップ	<p>京都市立学校で働く魅力は?</p>
松田	<p>市立の学校は特色のある学校が多いという印象があります。学校数は多くはないですが, それぞれで学校ごとに色が出ていて, 研修会や部活動の練習試合などで他校の先生とお話する時でも, 同じ教科でも教え方が全然違ったり, 大事にされているものが学校ごとに違うというのはお話していてすごく楽しいなど。学校数にも関係するかもしれませんがアットホームな雰囲気です。</p>

	京都市立の高校はまわっているなという印象を受けるので、そこがすごく魅力的であると思います。
テロップ	現・塔南高等学校は令和5年度に開建高校に生まれ変わります
テロップ	新校開校に向けた意気込みは？
松田	新しい学校は普通科の改革であるということに大きな意義を感じています。普通科というと皆同じ目標で同じやり方で努力をしていくというイメージがありましたが、多様な生き方もあり、多様な子どもたちですので一人一人が自分のやりたいこと・個性に応じた将来やっていきたいことを見つけて、それに向かって頑張れるような学校、それが新しい普通科になったらいいなと思いがありましたので、そのような学校にしたいと考えています
テロップ	京都市の教員を目指す方に一言
松田	京都市は自由さと新しさを兼ね備えたすごく楽しくて働きがいのある地域だと考えています。ぜひ、皆さんも私たちと一緒に働きましょう。
ナレーション	京都で先生になる、そんなあなたを私たちはお待ちしております。